

モンゴル訪問の3日間

徳島大学長
青野 敏博
あおの としひろ

2007年の10月はじめにモンゴル健康科学大学(Health Science University of Mongolia: HSUM)と徳島大学との学術交流協定を締結し、同時に創立65周年記念式典に出席するため永田歯学部部長、北川HBS研究部教授と共にウランバートルを訪れました。同大学は医学部、歯学部、薬学部、看護学部など医療系の7学部から成り、学生数5200人を擁しています。

現在HSUMから徳島大学の医学部と歯学部の大学院に合計11名の優秀な学生が留学しており、このような機会を得ることができました。10月3日の夕方HSUMで歯科教育と国際交流に携わっておられる西野名誉教授らの出迎えを受けて空港に到着しました。

翌日は大学を見学し、医学部の学生が1学年400名も教育を受けているのには驚きました。学生は女性が圧倒的に多く、モンゴルの家庭では男性は早く就職し、女性が高等教育を受ける機会が多いことを知りました。夜には市内のレスリング会館で創立記念の学生と教員によるシヨウが3時間に亘って催され、歌あり踊りありと大いに盛り上がり、教員と学生の絆を強くするのに役立つのではないかと思います。

5日の午前中には医学教育の改革に関する国際会議が開かれ、米国、カナダ、オーストラリア、韓国、モンゴルから教育カリキュラムの現状が発表され、我が国の状況については私が報告しました。韓国では学士入学制度が、カナダではopenning制度が取り入れられていることが目を引きました。午後には徳島大学とHSUMの学術交流協定の調印式と両大学の医学部および歯学部間で覚書を交わして、名実ともに交流を深める礎ができました。その夜は創立65周年記念の祝宴が開催され、モンゴルの文部科学大臣、厚生大臣、WHOの代表、各国の大使なども出席して盛大にお祝いをしました。

滞在の最終日には大学の保養地のエルケス・リゾートへ招待を受けて車で出発しましたが、初雪が降り始め四面銀世界になりました。草原にゲルと言つ円形のテントとやや広い木造の建物があり、中はストーブで暖かく羊の肉と馬乳酒をご馳走になりましたが、独特の味でした。

この3日間のモンゴル旅行を通して、ハグスレン学長をはじめ多くの方々から心のこもった暖かい歓迎を受けて感激しました。市内の道路や大学の建物などはまだ十分には整備されておらず発展途上国ではありますが、若者達は活力があり明日の国造りに燃えていることを感じて帰途につきました。

学術交流協定締結式、ハグスレン学長と(右が青野学長)



医学教育に関する国際会議(発表 青野学長)



歯学部学生が民族衣装で歓迎



エルケス・リゾートのゲルの前で(右から2人目が青野学長)